



眷属との純愛

”悪魔の母と
ひとりぼっちの勇者”



……は……



お目覚めのようね。



ここは私と貴方だけの空間よ。声も行動も存在も私達以外に誰かに知られる事はない。特別な空間……。

貴方の悲しい泣き声を聞いて、ここへ連れてきたの。

ひとりぼっちで頑張ってきたのに報われなかった貴方の……ね。



…僕は子供のころから
何年と戦い続けて
ついに魔王を討伐した。



報われなかった…か。

……



僕はもうこの世に
必要がないのなら いっそ
自ら…って思ってたんだけど…

けれど国は僕のを
疎ましく思い
僕を殺そうとしたんだ。



その命…私に預けて
もう一度新しく
生まれ変わって見ない？

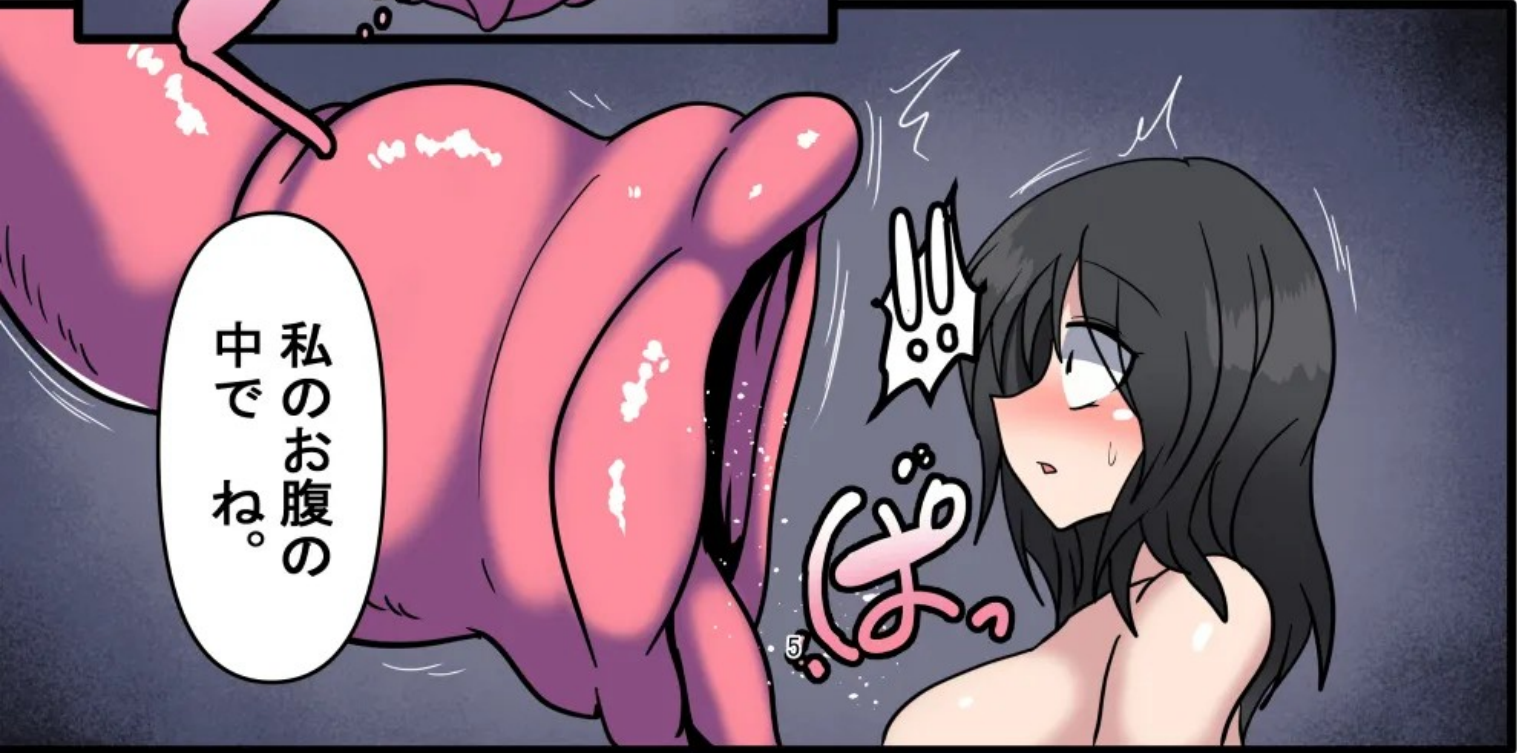
…自ら捨てる命ならば



悪魔になったからって
人間を襲わないと
いけないルールなんて
ない。



あなたは
勇者ではなく
新たな存在として
生まれ変わるの。



私のお腹の
中でね。



ぐわ
るっ

ぐわ
っ

うあ

ほ

尻尾が口を開いて…
僕を呑み込んで…
食べられてる…!!



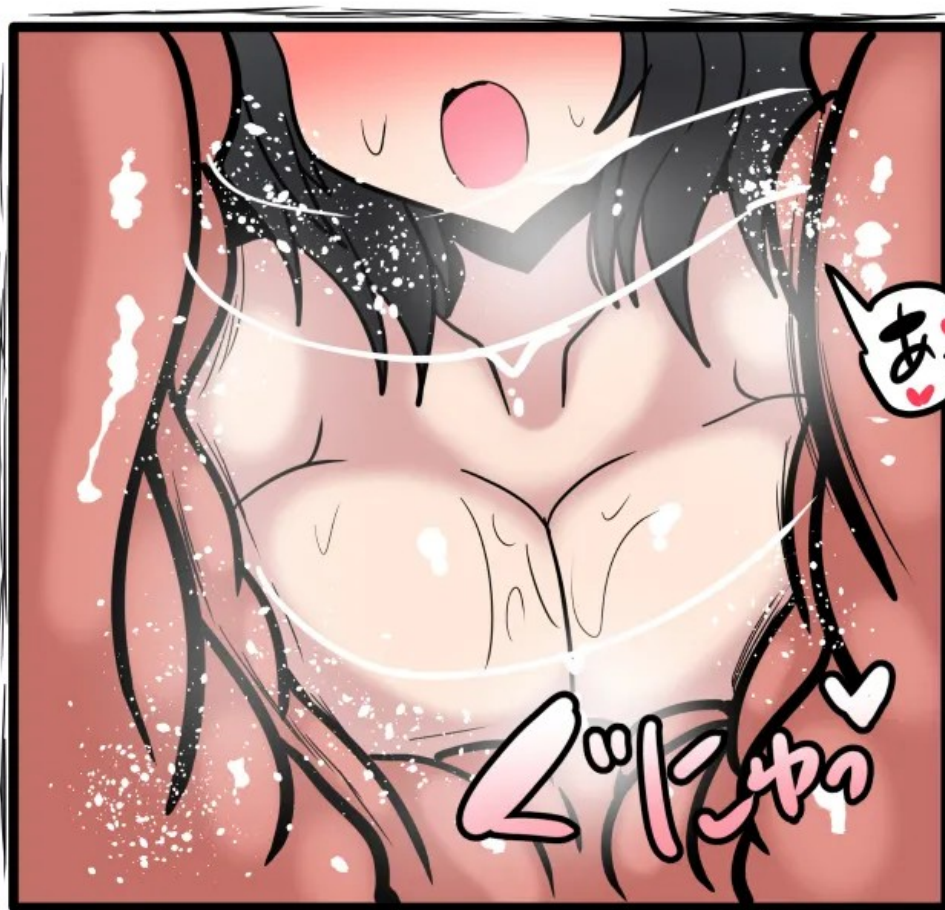
ぐわ
ぐわ
ぐわ

大丈夫
暴れないでいいわ…

尻尾に
身をゆだねて
奥へ運ばれて
ゆきなさい…









じゅわん

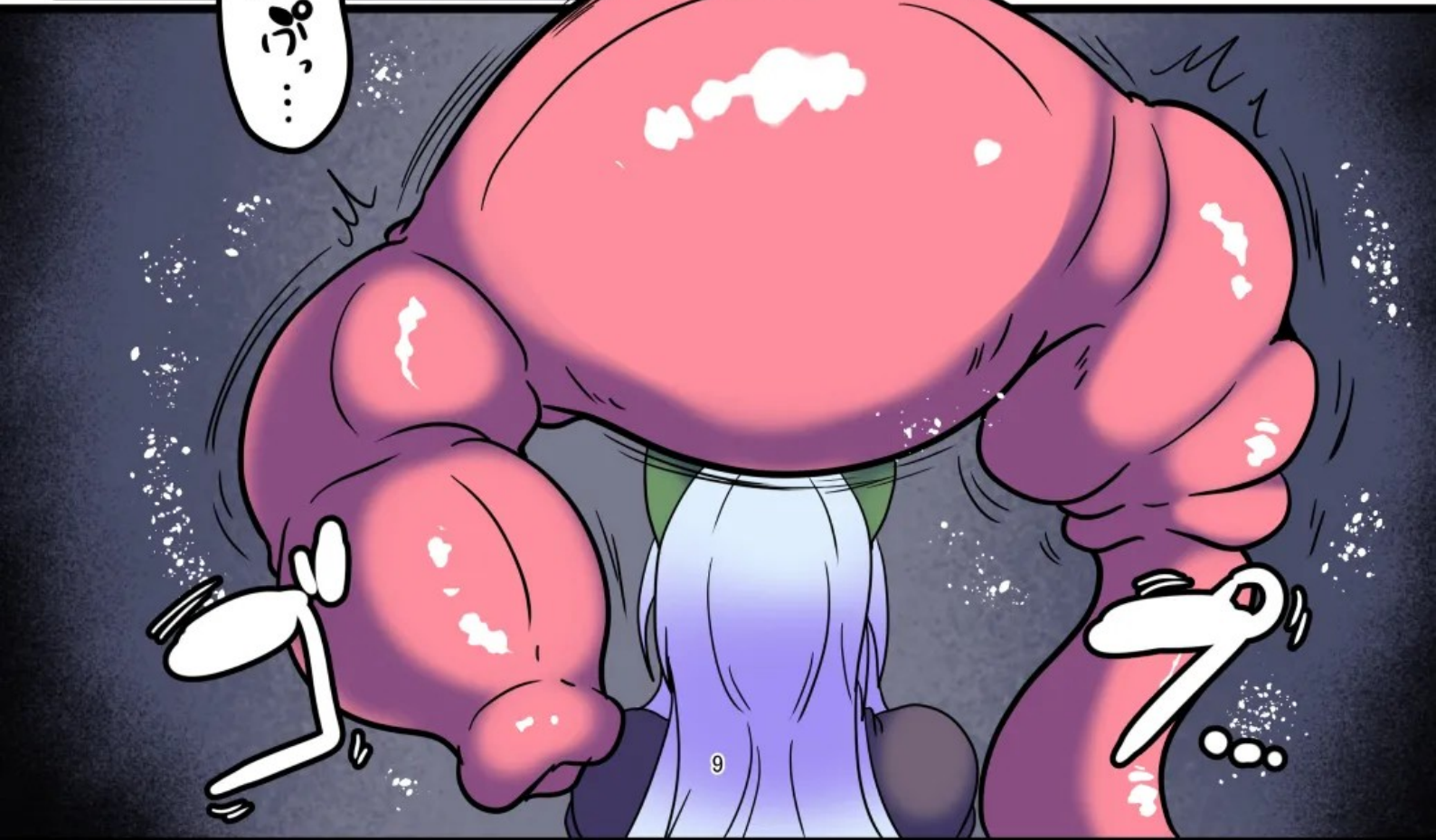


... じゅわん

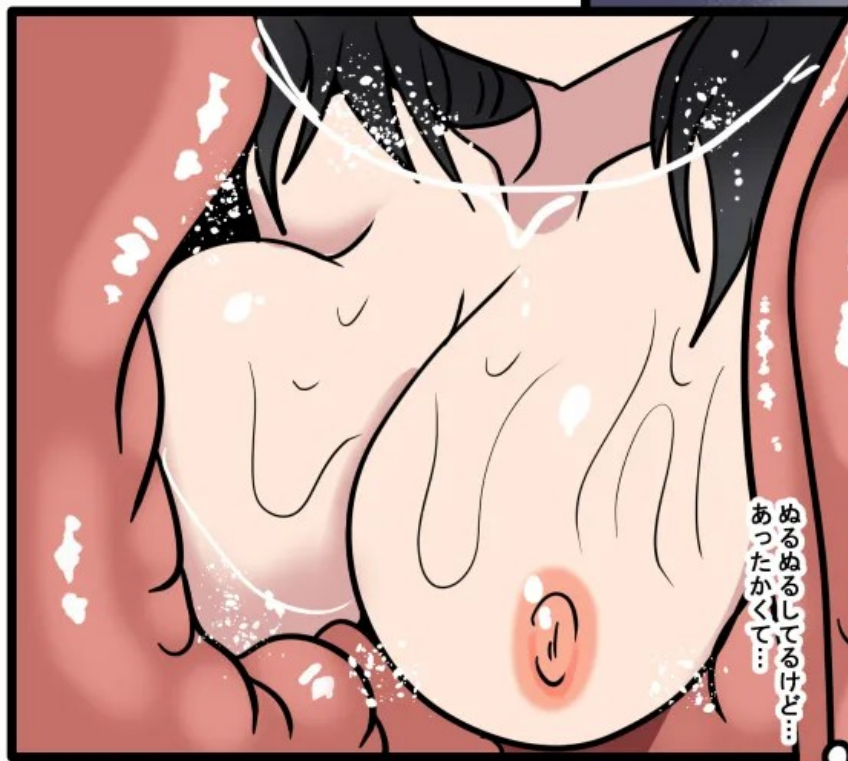


じゅわん... じゅわん

じゅわん... じゅわん



じゅわん...

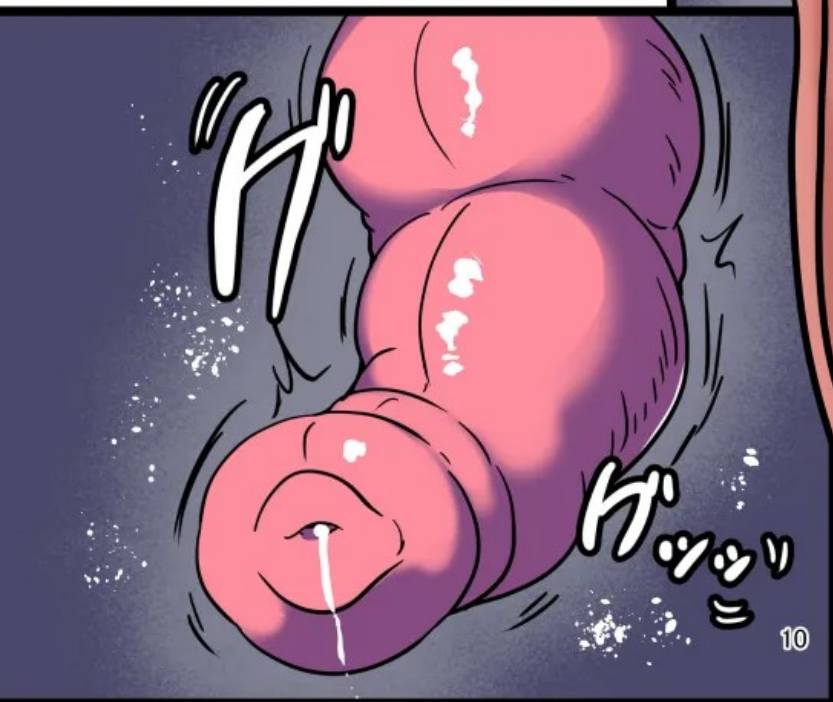


ぬるぬるしてるけど...
あったかくて...

全身呑み込まれたけど...
息苦しくない...



安心してね？
呑み込まれたからって
命に関わる事は
ないんだから...



グ

グツツリニ





いらっしやい…
いや おかえりなさいと
言うべきかしら？

今だけ 私の事を
お母さんだと
思ってちょうだい。

生まれ代わる
その瞬間まで
ゆっくりおやすみ……





じぶんのからだ
あたたかいものに
つつまれているか……



とてもあたたかい……
すごくあんしんする……
このきもち どこかで……



ああ……
このかんじ……
とおいむかしに
かんじたことがある……

そうだ……これは
むかししんじやった
ほくのおかあさんに
だきしめられたときと
おなじだ……



じぶんのからだ
が
どんだん
ゆうしゃのときの
からだじゃなくなっていく

ほんとうにほくは
いや わたしは
あたらしく
うまれかわれるんだ



ちよっぴり
さみしくて…
かなしいけど…



なんだか
とてもうれしい…



あなたはこの瞬間
勇者ではなく
あなたそのものとして
生きることが出来る。

けれど心配する事はないわ。

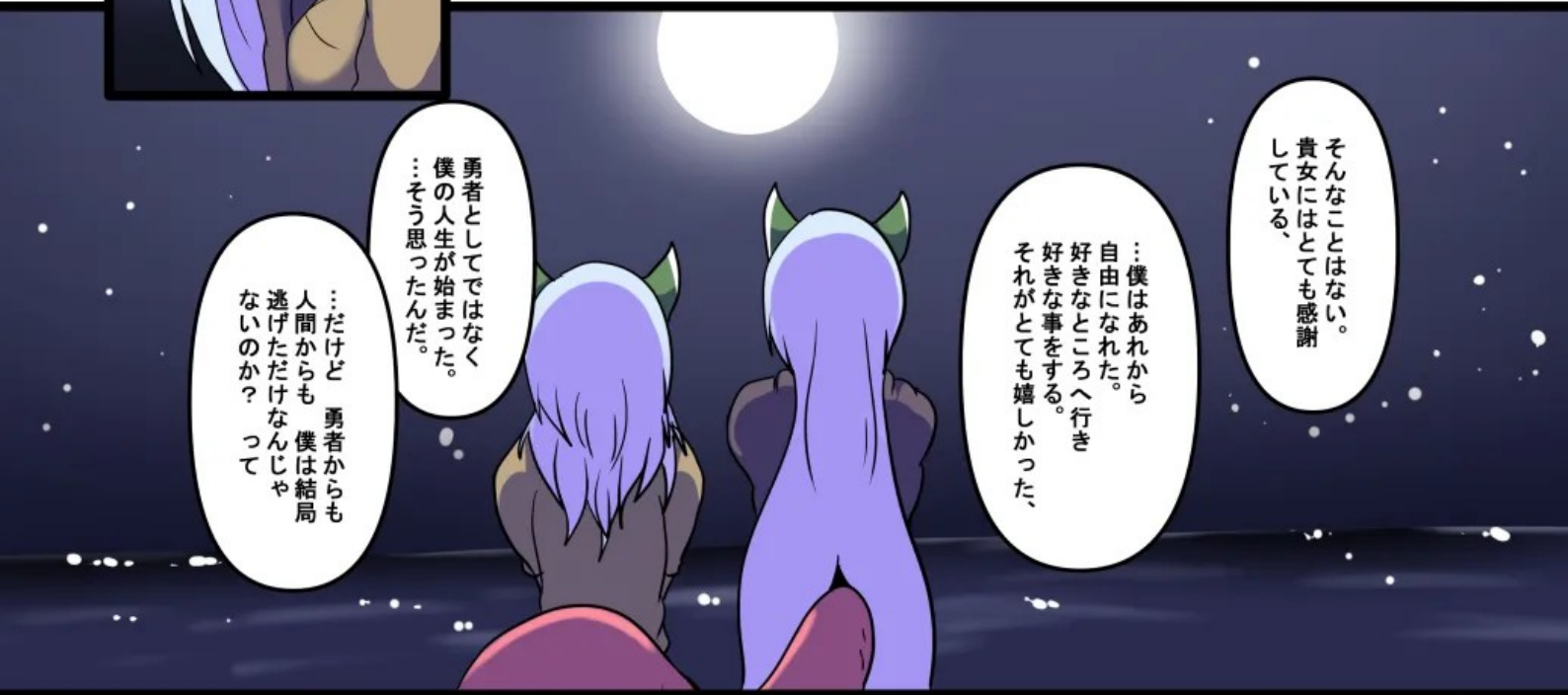
私を 全部あなたの
味方でいさせてちょうだい。

なにものにも縛られない
悪魔として 自由に
幸せに生きてほしい。

それが私の望みよ。



悪魔の姿になって
やっぱり後悔してる？



そんなことはない。
貴女にはとても感謝
している。

…僕はあれから
自由になれた。
好きなところへ行き
好きな事をする。
それがとても嬉しかった、

勇者としてではなく
僕の人生が始まった。
…そう思ったんだ。

…だけど 勇者からも
人間からも僕は結局
逃げただけなんじゃ
ないのか？ って



きゃー!!
はだかだ!
なってる!?



大丈夫
それは貴方だけじゃない。



あなたは
楽しく
生きていいのよ。

逃げるよりも
理不尽に耐えて壊れる方が
よっぽど辛くて残酷よ。
命を否定される理由なんてない…。



えっ
私も？

たまにはママも
混ぜろーよ!!



キミが新しい家族なんだね。
いままでお疲れ様。
そして初めまして!!

キミの事 深く知りたい
から 今晚は仲良く
やろうね♪



キミとっつても
可愛いよ。

もっと
ちょうしょ?

んっ

はぁ

そっか
今まで勇者で
頑張ってきたんだね。

私たちが
いいこいいこ
してあげるね♪



んっ



相変わらずママって
攻められると
たじたじになっちゃう
よねえ

でも私そういうママも
えっちでかわいくて
好きだなあ



…自由に 幸せに
生きてほしいと
前にあなたは
言ってくれたよね…

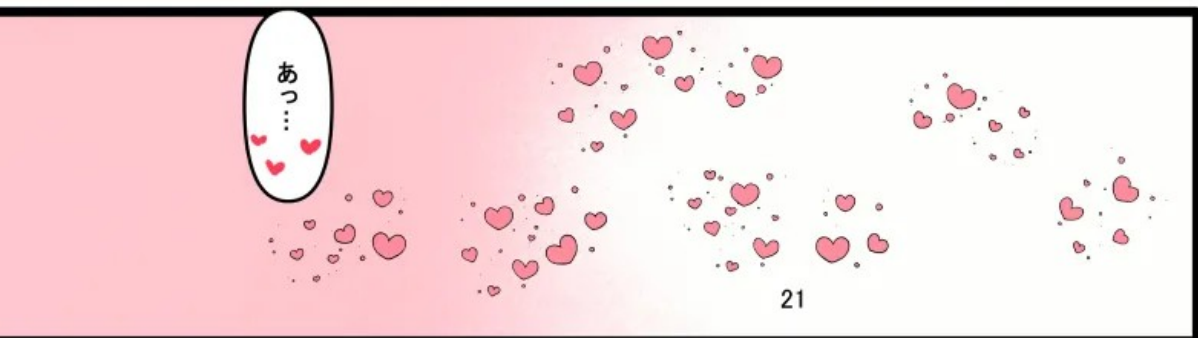


…いいかな？

今は 貴女と愛し合って
幸せを感じたいんだ。



や…優しく
してちょうだいね？



あ…

どうもタクです。
久しぶりの眷属シリーズはいかがでしたでしょうか。
いろいろありましたが、創作の進め方についていろいろ学んできたので
これからはより一層精進いたします。
どうぞよろしく願いいたします。

2025年8月16日発行

印刷所 プリントプロ様
発行者 タク/幻想ストマック

この物語はフィクションです。
無断転載、無断翻訳、未成年者の閲覧を禁じます。